第6回新生ヨシ焼き
を行います！

2013年からスタートしたヨシ焼き。
今年もはじまります。

2018年3月5日(月)ー24日(土)の間で
風の弱い安全な日(日曜日は除く)
(5日間程度:早朝5時半～10時頃)

伏見のヨシ原って？

伏見の宇治川河川敷の観月橋から国道一号線あたりまでの一帯です。以前よりヨシズの材料として使われ、この地域の人々の生業に深く関わるものでした。現在は、三栖の炬火祭での炬火(たいまつ)や、文化財や重要建造物の茅葺屋根の材料としても使用されています。また、歴史的にも古く、石田三成がこの地域のヨシ原を管理し、軍資金に活用されたとも言われています。

そして、伏見のヨシ原が西日本一のツバメのねぐらだということが、ユニークで豊かな自然環境であることを裏付けています。毎年数万羽のツバメがこのヨシ原にやってきて、南の国への渡りまでのねぐらとして時を過ごします。夏の夕方、一斉にヨシ原へ舞い戻る飛翔姿は圧巻です。

なぜヨシを焼くの？

ヨシは水辺に生える植物で、ヨシ原は水中と陸地の生態系が混じり合う、大変ユニークな環境です。ヨシはイネ科の植物で地面の下で地下茎でつながっています。4月に芽を出し、夏になると3～4mくらいの高さになります。秋に花が咲き、冬になると枯れます。枯れた後、放っておくとそのまま立ち枯れをし、ヨシ原は藪になってしまいます。それを防ぐために、刈り取ったり、ヨシ焼きをしたりという手入れが必要なのです。手入れをすることで、また春にヨシが新芽を出し、健康な状態のヨシ原が保たれるのです。このため、市民の手でヨシ原を保全しようとプロジェクトを立ち上げ、行政当局の指導のもと、ヨシ焼きを行っています。ご理解、ご協力をお願い申し上げます。

ヨシ焼きに関する問合せ:「伏見のヨシ原，再発見！」プロジェクト事務局
TEL:0774－55－6912　FAX:0774－27－2186

回覧										